平成31年（2019年）３月発行

平成31年（2019年） 春号

大津・南部の農業

●発行●
滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課
草津市草津三丁目14-75
TEL 077-567-5421～5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス
ga35@pref.shiga.lg.jp
Facebook
https://www.facebook.com/facetoagri.o.n/
発行責任者 榎木 秀和

この印刷物は古紙パルプを配合しています

農業経営の改善に６次産業化を考えてみませんか？

近年、米価の低迷など農業を取りまく状況が大きく変わる中、地域農業を担う経営体の体質強化と経営安定が求められています。その手段の一つに「６次産業化」があり、管内でも11経営体で取り組んでおられます。６次産業化とは、農林水産業者が加工や販売等に取り組むことで、生産物に付加価値を加え、経営の改善(所得向上)などを図るものです。

今回６次産業化に取り組まれた守山市のイチゴ農家(法人)は、新たなハウスの増設に伴い、イチゴが多く採れる時期に有利販売を行うための対策として始められました。主な内容は、摘み取り園等でのスイーツの提供と、インターネット予約販売サイトの開設などホームページの更新による新たな顧客の開拓です。スイーツはフリーズドライにしたものを混ぜ合わせたソフトクリーム、独自に開発したイチゴシロップを使ったかき氷です。その他にも来園者の持ち帰り用としてジャム加工も手掛けられます。

６次産業化プランナーとの相談

イチゴを原材料にした商品

これら６次産業化の取り組みは、県の６次産業化プランナー制度を活用して、専門家からデザイン、加工技術、宣伝・広告等の具体的な方法について、コストや労力も踏まえた助言を得て進められました。今回、国の６次産業化総合化事業計画に認定されたこともあり、必要な設備投資の一部は改良資金の６次産業化枠を利用されています。今後はスイーツの種類や贈答用の商品数を増やすなど、夢は膨らんでいます。

みなさんも経営改善を図るため、６次産業化に取り組んでみてはいかがでしょうか。

大津・南部の農業／2019年度春号.indd 1 2019/02/13 14:01

栗東市六地蔵 農事組合法人「梅ノ木ファーム栗東」発足！

六地蔵営農組合は、大区画のほ場整備（約28.5ha）を契機に農事組合法人「梅ノ木ファーム栗東」を平成31年1月に設立されました。

法人設立に向けた検討に約２年をかけ、耕作農家だけではなく、地権者も含めたワークショップ※を取り入れるなど、「理念」を集落全体で共有することに重点をおいて話し合いを続けてこられました。法人名にある「梅ノ木」は六地蔵の古来の名称であり、全国的に知名度のある「栗東」を入れることで、今後の経営展開で全国に通じる組織になるようにとの熱い想いが込められています。今年の夏から法人による耕作が始まる予定です。

※**ワークショップ：**問題解決の手法として、参加者が自発的に発言しやすい環境で、司会進行役を中心に全員で体験型の話し合いをすすめる手法。

外部講師を招きワークショップ形式で意見集約が図られました

共通理念の下に法人を設立

特定農業団体から法人へのステップアップ ～将来的な雇用労力の活用をめざして～

県内には約300の集落営農型法人が誕生しています。そのような中、管内の集落営農リーダーにお話を伺うと「法人化しても、組合のメンバーは増えないから後継者問題は解決しない」「継続性が担保できないから法人化はしない」という声を聞きます。確かに、法人化して認定農業者になれば、麦・大豆の交付金や機械の補助等で利用できる有利な事業はありますが、それだけでは担い手は増えません。

では、後継者がいない場合、地域の農地を守るためには、次の３つの中でどれが最も現実的でしょうか？

① 現状の営農組合または個人として営農を続けていく（やれるとこまでやる！）。
② 近隣の担い手農家に耕作を任せる。
③ 法人化して、将来は雇用労動力を活用した営農を継続する。

②の場合、良い土地条件で一定規模の農地なら、耕作者も見つかるかもしれません。ただ、この場合でも農地が虫食い状に耕作されないよう、一旦は法人が集約して農地の貸借条件を整理しておくことが大切ではないでしょうか。

③の場合、経営や賃金確保といった責任が生じるため、法人を運営する人材が不可欠ですが、常時雇用できる経営状況であれば、自力で担い手（雇用）を作り出せる手法とはいえないでしょうか。

簡単なことではありませんが、当課では集落や地権者で支える農業法人や担い手の育成が、集落営農のステップアップのひとつと考えています。

大津・南部の農業／2019年度春号.indd 2 2019/02/13 14:01

私たちがんばっています！ ～躍動する青年農業者たち～

大津市　髙谷（たかや） 一弥（かずや）さん

髙谷さんは、平成30年3月に滋賀県立農業大学校就農科を卒業されました。大津市で農業を営んできた祖父の経営をさらに発展させるため、イチゴ（約600㎡）とトマト（約860㎡）の生産に重点を置かれています。市街化が進んだ地域のメリットを生かした庭先販売がメインで、近隣の住民に新鮮でおいしい野菜を提供できるよう、日々栽培方法に工夫を凝らされています。近隣では農地が減少していますが、その中で貴重な若手農業者の一人として、これからの活躍が期待されます。

守山市　北川（きたがわ） 圭一（けいいち）さん

北川さんは、平成28年にイチゴ（1,200㎡）とブルーベリー（10ａ）の栽培を開始されました。もともとはサラリーマンとして働かれていましたが、ナシを栽培されている北川農園で親元就農し、「１年中、収穫・出荷できる体制をつくりたい」と、新たな品目を導入されました。「父の背中を追い続けたい、顔の見える販売を拡げていきたい」と日々熱心に管理されています。いきいきと作業されている姿が印象的な北川さん、北川農園の４代目として、ますますの活躍が期待されます。

栗東市　中井（なかい） 栄緒（まお）さん

中井さんは、滋賀県立大学卒業後、１年間のアメリカでの農業研修を経て、平成26年に「マオマオふぁ～むマオマオ」を作り、営農を開始されました。イチジクハウス４棟(約1,200㎡)をはじめ、タマネギ、ジャンボにんにく、秋冬キャベツ等を栽培されています。「滋賀県といえば栗東イチジクと認知してもらえるようがんばりたい」と話す中井さん。「イチジク帽子」の作成やSNSを利用したPR活動の他、近隣の学校へ食育を目的とした農業講話にも精力的に取り組んでおられます。また平成30年度滋賀県果樹品評会 いちじくの部 で２位の好成績を収められるなど技術研鑽に励み、「栗東いちじく生産組合」の次代を担う若手として、今後ますますの活躍が期待されています。

大津・南部の農業／2019年度春号.indd　3　　2019/02/13　14:01

中山間地における集落の活性化 ～大津市北船路～

中山間地農業では傾斜による条件不利地のほか、高齢化・担い手不足等様々な課題を抱えています。こうした状況を打開するため、集落外の組織との連携により活性化に取り組んでいる大津市の農事組合法人「北船路福谷の郷」の事例を紹介します。

1 大学・企業と連携した地域商品作り

「北船路福谷の郷」では、比良山地に広がる棚田の景観を守りながら水稲や野菜の栽培に取り組まれています。その一環として龍谷大学社会学部、酒造会社と協働した地酒作りが行われています。３者は「生産者と消費者をつなぐ」という想いのもと同法人が酒米を作り、学生がラベルの製作、酒造会社が製造・販売を担い役割分担されています。

地元産のお酒が出来たことで、村おこしの気運が高まり営農意欲の向上にも繋がったとのことです。今後は、新たにコンニャクの製造等も検討されており、更なる活性化を目指されています。

北船路産の酒米で
作られた地酒

2 NPO法人と連携して集落営農を維持

北船路地区では、農業者を育てるＮＰＯ法人と連携し、一年間の実体験をつんだ研修生の受け入れを行っておられます。研修生が現場を体験する貴重な場として畦畔除草、野菜の収穫などの作業に従事することで、同法人の年間計画が円滑に行われ、集落営農の維持に繋がっています。

農業排水、農作業事故の対策を!

1 農業排水対策の徹底

春になると代かきや田植えが始まり、肥料養分を含む濁水が琵琶湖に流れている実態があります。琵琶湖の水質等を守るため ①耕起は田面を均平に仕上げる ②畔からの濁水漏れを防ぐ ③適量入水を計画的に行う ④浅水代かきを行う ⑤落水なしの田植えを行う の５つのポイントをしっかりと守りましょう！

滋賀県イメージキャラクター
「キャッフィー」

2 農作業事故の対策を万全に

昨年、春先から農作業中の熱中症による死亡事故の報告がありました。こまめな水分補給・休憩や通気性の良い衣服の着用など十分に熱中症対策を行い、日中の暑さに備えてください！

また、平成29年に発生した農作業事故は県内で40件、うち草刈による事故が11件と最も多くなっています。草刈中の事故を減らすため、作業時は周囲の安全を確認するとともに、防護メガネや安全靴を必ず着用するようにしましょう！

大津・南部の農業／2019年度春号.indd 4 2019/02/13 14:01